

平成27年度における医療事故等について

1 レベル別件数

区分	レベル	内 容	件 数			計
			岡本台病院	がんセンター	とちぎリハビリテーションセンター	
ヒヤリ・ハット事例	0	エラー(※1)や医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	149	198	152	499
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない。)	505	617	271	1,393
	2	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサイン(※2)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。)	173	333	196	702
	3 a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)。	17	183	39	239
医療事故	3 b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)。	3	2	4	9
	4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0	0
	4 b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	0	0	0
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	1	1	0	2
計			848	1,334	662	2,844

※1 ある行為が、①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※2 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数

事象	内 容	件 数			計
		岡本台病院	がんセンター	とちぎリハビリテーションセンター	
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	165	408	164	737
輸 血	血液検査、輸血など	0	10	0	10
治療・処置	手術、麻酔、処置など	12	148	18	178
医療用具	医療用具、医療機器など	3	7	11	21
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	0	167	0	167
検 査	採血、撮影など	8	122	16	146
療養上の場面	転倒、転落、給食、栄養など	543	273	306	1,122
その他		117	199	147	463
計		848	1,334	662	2,844

((公財)日本医療機能評価機構による分類に準じる)

3 代表的事例及び対応策

事 象	代 表 的 事 例	対 応 策
療養上の場面 (転倒)	<p>【レベル2】 夜間、患者が目覚ましトイレに向かう途中、足がもつれ転倒する。医師の診察の結果、特に擦過傷等はなかったが、患者から強い希望があり、精神的な安定をはかるため湿布を貼付した。</p>	<p>就寝前の排尿誘導、夜間に排尿を行う際は、看護師への声掛けを依頼した。 また、内服状況、日常生活状況及び睡眠状況等を継続観察することとした。加えて、筋力アップ体操、ラジオ体操を行い筋力低下の予防を図ることとした。</p>
薬剤 (その他)	<p>【レベル1】 外来で受診された患者Aのお薬手帳に、別の患者Bのお薬手帳用シールを貼付して渡してしまった。</p>	<p>患者Aに電話連絡し詳細を説明、謝罪した。後日患者Aのお薬手帳から患者Bのシールを回収した。 単なるシールの貼り間違いではなく、患者誤認や他患者の個人情報漏えいにも該当する重要インシデントであり、再発防止策として、シールの貼付前に、①手帳に記載された患者の名前、②シールに表示されている患者の名前と処方内容について、患者とともに確認することとした。</p>
療養上の場面 (転落)	<p>【レベル2】 夜間巡回中(20時)に病室に伺うと、ベッドサイドの床に患者が横たわっているのを発見した。ベッド柵に掛けてあったベッドのコントローラーを取ろうと引っ張った所、コントローラーのフックが切れてしまい床に落ちた。それを取ろうとしてベッドから転落した。患者には外傷や意識障害はなかった。</p>	<p>再発防止策として全ベッドのベッドコントローラーフックを点検し老朽化しているものを交換した。また、安全な環境整備の推進に向けて、日ごとの点検では、患者個々の生活行動に合わせて気を配ること、安全確保のため、必要に応じて夜間はベッド柵を上げることとした。今後は、患者入院時のベッド設備説明時および患者退院後の環境整備時に必ず点検し、不具合があるときにはすぐに交換することとした。</p>
薬剤 (注射)	<p>【レベル0】 看護師が、処置室で糖尿病用注射薬(インシュリン皮下注)を準備中、薬液内に異物が混入しているのを発見する。使用を中止し、未開封の物を使用した。</p>	<p>メーカーに問い合わせた結果、血液が混入した性状(使用者の血液が逆流したと思われる)であるとの報告を受けた。使用部署に対してメーカーからの報告書を配布すると共に、説明書に沿った使用方法の徹底と、使用前には薬液の性状確認をしていくことを継続するよう周知した。</p>
その他	<p>【レベル1】 外来リハビリが終了した5歳の患者が、受付前に置いてある伸縮性を楽しむ玩具(8cm大のゴム風船の中に小麦粉が入ったもの)で遊んでいたところ、外側のゴムが破れ、中の小麦粉が飛散し、患者の胸元にかかった。</p>	<p>玩具等の安全性を再確認し、不要なものは撤去し、必要最小限のものを置くようにした。なお、幸い患者に小麦のアレルギーは無かった。</p>